

義母とセックス 朝のコンクリート の橋の下

古いコンクリートの大きな橋の下が街の中心の方にある。

白く太い柱が河川敷の景色とうまく混ざりあっている。

・・・・・・・・近くには大型バイクのツーリング好き社会人たちが川辺の近くで晴天の空の下、昼間の景色を楽しんでいる。

もうすぐ夏が近づいてきそうな春の終わり。

いつものスーパーの前の道を通りすぎ、
お尻の小さいセックス大好きな小さい目
のおっばいの義母と俺は河川敷まで散
歩に来ていた。

学生時代にも、義母とここへは来たことがある。

その時もホットパンツを脱がして……。

……川の向こう岸には歪な形のビル。

「大丈夫？冷たくないっっ？」

振り向くと義母が怪訝な顔をして俺の方を向いていた。

少し睨み顔。だけど頬は赤らんでいる。

周囲は相変わらず人が多い。

ツーリングも増えて、白いキャミソールのお尻を義母は触った。

むっちむち太ももが見えている。

．．．．俺は義母の手を引く。

手首は柔らかく．．．．白いパンツは小さい。

近くにある景色が猛スピードで過ぎていく。

いつも買い物をしているスーパーも目に入らない。

コンビニの手前に来たときには義母のジーンズから背中、白い下着の上部が見えていた。

そして自宅へ・・・・・・・・。

・・・・・・・・。

義母の小さ目のおっぱいは柔らかく、吸
うと味がする。

真っ白下着は近くの商業スーパーの女

性用下着売り場に売っている。

ベッドの上で、まだ下着だけの姿の義母。

部屋にはエッチのためのコミュニティー
ルームがあった・・・・・・・・。

綿の柔らかいソファが部屋の隅にあり、男女がそこで寝そべってハダカで抱き合う。

更にはフローリングの床にはマットがあり、ソファはクッション性が抜群。

・ ・ ・ ・ 義母の柔らかな肌を触る。

女性らしい肌の香りがした。

髪を揺らす細い髪先には淫靡（いんび）
な汗が流れている。

気がつけば俺は腰を振っていた。義母は
お尻を突きだし背中をのけ反らせて喘
（あえ）ぐ・・・・・・・・。

白いコンクリートの部屋の床の真っ白
パンツは脱ぎ捨て、ベッドの上で無我夢
中になっている・・・・・・・・。

飛び散る汗と香りと肌と天井の暖色の
明かり・・・不思議な空気。

けっして豪華な場所ではない。

だけど義母のお尻はとても美味しくて
て・・・・・・・・下着はちゃんとクローゼット
の中に・・・・・・・・。

パンツの料金は格安のもの・・・・・・・・。

マンションは繁華街から少し離れたところにある。

上階には小さな和食店があり、窓から見える国道は遠くまで見える。

義母は窓に手をつき・・・・お尻を突きだす。

俺たちは懸命にセックスに汗を流した。

窓の景色は夏前の綺麗な星空だが、一切目に入らない。

額に背中に滝のような汗が流れた。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)